

ふるさとを
わたる風



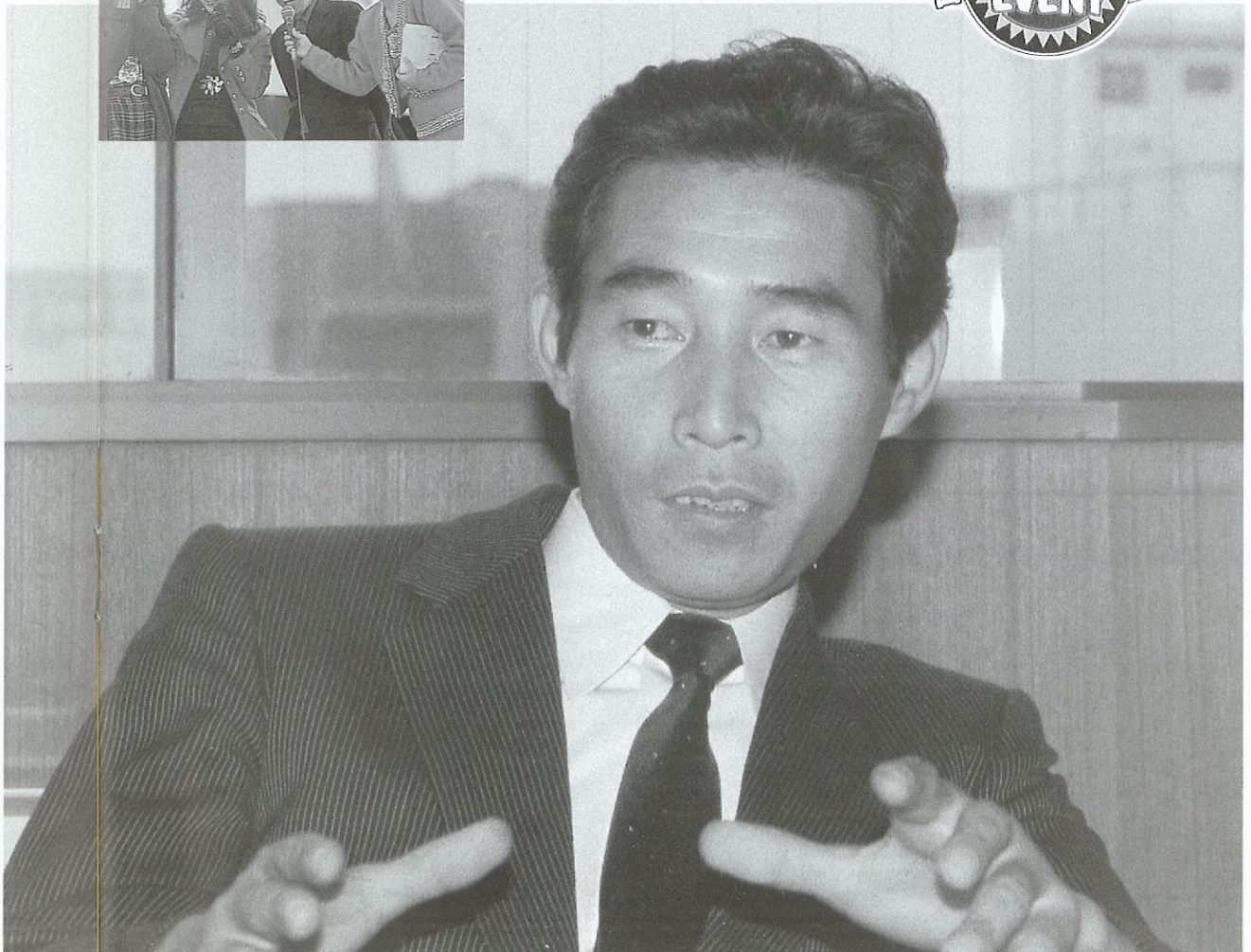
走るかい 登るかい—元気が弾けたクロスカントリー

手づくりイベントを一つの起爆剤に 津奈木町を若者の手で活性化したい

熊本県の南に位置する芦北郡津奈木町。人口5,783人の小さな町の若者達が、昨年の11月23、24日手づくりイベント「彫刻浪漫」に挑戦しました。両日、彫刻教室やクロスカントリーなど七つのプログラムに集まった人は約3万5千人。津奈木町始めて以来の集客数で、イベントは大成功を収めました。今回はそのイベントを手がけた「9303イベント実行委員会」の実行委員長野崎義智さんにお話を伺いました。



渡辺美奈代コンサートで的一幕。手づくりイベントならではの温かさが伝わります。



「9303イベント実行委員会」
発足のきっかけは？

野崎 昭和六十三年に、農業や漁業をはじめ異業種の若手十五人で構成する町長の諮問機関「活性化推進委員会」が発足しました。町会議員の方達と意見の交換会を行う中で、津奈木は小さな町なのに農協や商工青年部などがばらばらで活動しており、近所の人もあまり付き合いがない。個人個人が生活していくには問題はないが、町全体の将来を考えるとまとまって一つの行事をやった方がいいのではないかと話が始まりました。

野崎 昭和三十二年、農協や漁業をはじめ異業種の若手十五人で構成する町長の諮問機関「活性化推進委員会」が発足しました。津奈木町で人生の素晴らしい一ページを築こうと呼びかけるとどんどん輪が広がり、十八歳から四十歳まで百四十人程が委員会に参加することになりました。

最初はクロスカントリーと物産フェアの二つの予定でしたが、津奈木のキャッチフレーズは「緑と彫刻のある町づくり」。自然に彫刻教室や絵画展の企画が生まれてきました。最終的には七つの分野に分かれ、それをまとめて「彫刻浪漫」として進める形になったんです。

野崎 「9303」は面白いネーミングですが、その由来を教えてください。昭和二十五年、町の人口が一番



小さな彫刻家誕生。仕上りを楽しみに、熱心に石を削っていきます。

多かつた時の数です。何にしてもわいわい集まってやっていた、その時代の雰囲気は今に持ってきた。当時の活気がもう一度町に戻ってくれば、との願いが込められているんですよ。また、イベントの際、最低でもこれだけの人を集めるぞという意気込みでもある。我々の想いがつまっているんです。イベントの開催までに、どんな問題が出てきましたか？

野崎 まず予算の問題ですね。イベントは形に残りにくいものだけに、すんなりと町の助成金から、というわけには行きませんでした。何度も町長に陳情に行った結果、我々の熱意を分かっていただけでした。

次に人選です。シンポジウムのパネラー一人ずつに出向いて口説きました。また、彫刻教室では、スペイン在住の彫刻家川上順一先生がわざわざ日本に戻ってこれ

たんです。今思うと、イベントを動かしていたのはわっかもんの熱意だけでしたね。初心者ばかり、壁に突き当たっても、プロの手を借りず一つ一つ自分達で解決してきましたしね。

イベントが終わって町に 活気と自信が

野崎 イベントの終了後、町に変化はありましたか？

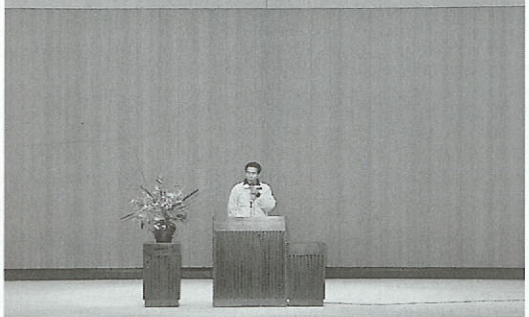
野崎 終わった瞬間、大人の抱き合ってしまったんですよ。人前もかまわず。それだけ一生懸命だったし、強い連帯感が生まれた瞬間でもあったんです。これが起爆剤になったようですよ。その後は酒を飲む時も、津奈木はこれからどう進むべきか、そればかりですよ。今まで行政が設置したという感覚しか持たず、あまり関心なかった彫刻ですが、活性化の大きな素材として見直すようになりましたしね。もちろん、続けられるイベントは来年以降も続けていきます。

しかし、何より最大の収穫は、わっかもんが自分の意見をはっきりと主張できるようになったこと。それは、「本当にでくつとだろるか？」という周囲の眼と、自分達の中の不安と闘いながらやり遂げたことへの自信の現れだと思いま

野崎 これからの抱負を聞かせて下さい。

野崎 津奈木にはたくさん才能ある人がいるんだなあと驚きました。この才能を生かせるように早く後継者を育てたいと考えています。自分の意見を町内外にきちんと伝えていける人を育て、一緒に津奈木の将来を考えていこうと思っています。

21世紀へ！ はばたけ風ん子シンポジウム



イベント開催セレモニーにて 津奈木の将来への想いを語ります。

- イベントプログラム
- 21世紀へ！ はばたけ風ん子シンポジウム
- オールナイトムービー
- 渡辺美奈代コンサート
- クロスカントリー
- 物産フェア
- 庁舎美術館
- 彫刻教室